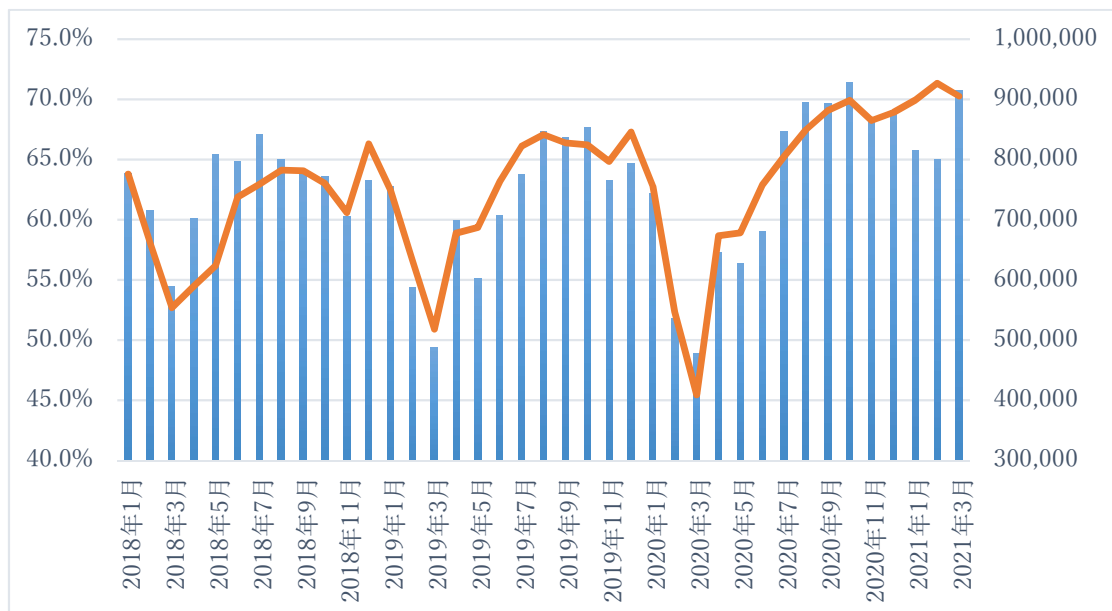


輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
 購買生産指導部
 購買推進課

北米コンテナ船情勢

米国内の旺盛な巣ごもり需要を背景にアジアから引き続き多くのコンテナ貨物が輸入されています。在宅勤務を採用した企業が増加したことで、OA機器、机、椅子などの輸入が増えています。米国最大級のコンテナ取り扱いを誇る、PSWのロサンゼルス港とロングビーチ港では昨年2020年6月まで両港合わせて平均71万TEUであった毎月のコンテナ輸入量が7月以降80万TEUを超えています。また例年3月は輸入数量が落ち込む傾向にありますが、2021年は91.5万TEUの輸入量を記録しています。この輸入数量増加は両港の荷役能力を超えており、沖合での本船の滞船は解消されていない状況です。またアジアにおける空コンテナ不足は顕著で各船社、アジア向けに空コンテナを集めることに注力しており、ロサンゼルス港とロングビーチ港から出港されるコンテナのおよそ70%が空のままアジアを中心に回漕されています。このため空コンテナ輸送に多くの船腹が割り当てられており、牧草輸出向けの船腹予約の取得が難しい状況が続いています。



LA/LB 港における月間コンテナ輸入量と空コンテナの出荷割合（本会調べ）

折れ線：空コンテナ回漕率（%）、棒グラフ：月間のコンテナ輸入量（TEU）

PNW のシアトル港、タコマ港では日本への経由地であるバンクーバー港の滞船が解消し、冬場に大きく遅れていた本船スケジュールは改善傾向にあります。一方PNWでもアジアへの

空コンテナ回漕が多く行われており、輸出向けの船腹は逼迫しており船腹予約の取得が難しい状況です。

海上運賃は毎月のように値上げされており5月にも多くの船社でGRI(海上運賃一斉値上げ)のアナウンスをしており、コンテナあたり\$100程度の値上げが予定されています。

ビートパルプ

【米国】

ミシガン州とミネソタ州クリスタル地区では4月下旬から5月初旬にかけて天候不順と冷涼な気候が続いたため、作付作業が一部遅延していましたが、最近では天候が回復したため、作付けは急ピッチで進んでおり進捗は過去3年で一番早いペースとなっています。

ミネソタ州中南部では5月上旬時点で約20%の作付けを終えており今後急速に作業が進捗すると予想されています。

2020-2021年産ビートの製糖作業は順調に進み、現在終盤を迎えており、5月下旬に製造が終了すると見込まれています。

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは、21年産1番刈の収穫が南部で5月初旬から開始されています。直近の穀物相場が良いため、生産者によっては1番刈でアルファルファの生産を止めトウモロコシや豆類、麦などに転作するための準備が進められています。

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは2番刈が収穫されています。生産者によっては3番刈の収穫がまもなく開始されますが、最近では最高気温が35℃まで上がっており、品質が低下し始めています。これまで収穫された1番刈と2番刈の品質は非常に良好で、高成分を中心に中国、サウジアラビア向けに取引されています。

カリフォルニア州北部ディクソン地域では、1番刈の収穫が終盤を迎え、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。1番刈は天候に恵まれたため高成分の上級品が収穫されています。産地の酪農家はトウモロコシや大豆などの穀物相場高騰を受け、穀物に代わりアルファルファの給与量を増加させています。この影響で産地でのアルファルファ需要は強くなっており、産地相場は前年の同じ頃と比べ高い水準で取引されています。

ユタ州

冬場の降雪量が少なく旱魃傾向にありましたが、春先に降雨に恵まれたため状況は持ち直しています。21年は例年よりも気温が低く推移しており、ゆっくりとしたペースで生育しており、6月上旬頃から1番刈の収穫が開始される予定です。

米国産チモシー

21年産の作付面積は昨年並みから輪作の関係で微増になると予想されています。

コロンビアベースンではアルファルファ同様、好調な穀物相場を受け1番刈でチモシーの生産を止めトウモロコシや豆類に転作を考える生産者も出ているようです。

スーダングラス

インペリアル群灌漑局から発表された、5月1日時点の作付面積は前年同期比6,838エーカー減少した27,578エーカーとなっており、過去5年で一番少なくなっています。一方で競合作物であるデュラム小麦はスーダンの作付減少分を補うように前年同期比6,414エーカー増加しています。

各輸出業者21年産の総作付面積は昨年並みになることを見込んでいますが、この時期作付される早撒きスーダンの作付面積が低調なことから21年産における上級品の発生量には注視が必要です。

春先は乾燥した気候のなか、気温が例年よりも高めに推移したものの、夜間の気温は低く昼夜の寒暖差があったためスーダンにとって良好な生育環境となっています。21年産の収穫作業は5月末から6月上旬から開始される見込みです。

産地では輸出業者及び生産者において20年産の繰り越し在庫がない状況で21年産の収穫が開始されるため、21年産の相場は強含みで推移する可能性があります。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

インペリアル群灌漑局から発表された5月1日時点での作付面積は19,683エーカーと前年同期比2,493エーカー減少しています。昨年に比べおよそ10%程度作付面積が減少していますが、輸出需要を十分満たすことができる供給量になると予想されています。

産地ではすでに1番刈の収穫が開始されています。今後収穫は本格化してきますが、これまで収穫されたものは上級品を中心に発生しているものの、ウィンターグラス等の雑草混入が一部で見られています。

バミューダ

産地では良好な気候が続いており順調に生育しています。住宅事情もよく種子価格が好調なため、多くの圃場で牧草でなく種子が収穫されています。作付面積が若干減少していますが、今後牧草も収穫されるため輸出向けの需要を十分満たすことができると予想されています。

カナダ産チモシー

アルバータ州南部レスブリッジ地区の21年産の作付面積は、概ね昨年並みとなっています。生産者、輸出業者ともに20年産の繰り越し在庫を持たない状況で21年産を迎える見込みです。一方冬季におけるロッキー山脈の積雪量が例年以下となったことや産地で雨が不足してい

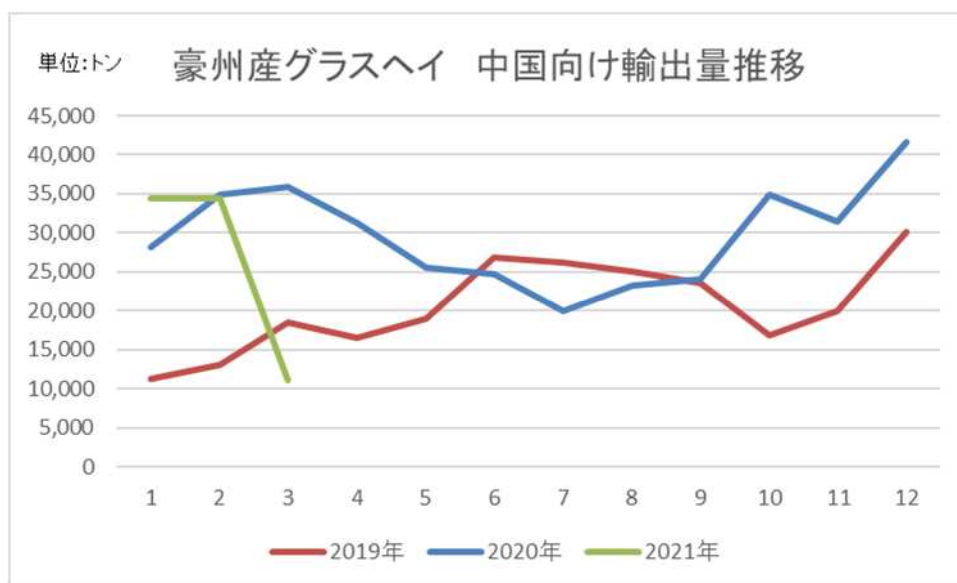
るため、灌漑用水不足が懸念されています。

アルバータ州中部クレモナ地区の作付面積は、20年産の作況が悪かったこと、競合作物となる穀物の相場が好調なことから昨年比で減少する見込みです。レスブリッジ地区同様、雨不足が続いていますが、例年5～6月に降雨があるため、作況への影響は、今後の天候次第となります。

豪州産オーツハイ

2月末に産地の多くの工場で中国向けの輸出ライセンスが期限切れとなりましたが、現在まで進展が見られておらず、中国向けの出荷量は鈍化しています。豪州農務局から発表された21年3月の豪州産オーツハイを中心とするグラスハイの中国向け輸出量は前年同期比24,652トン減少の11,189トンとなっており、影響が出ています。

例年5月から播種が開始されますが、中国向けの輸出が減少している状況を鑑みオーツハイの需要減退を危惧し、生産者によっては換金性の高い菜種を中心に転作を示唆しており、地域によっては21年産オーツハイの作付面積は20年産比20%～30%減少することが予想されています。このため20年産で発生量が限定的であった上級品の相場は堅調な一方、発生量の多かった雨当たりの下級品相場はやや軟化しています。



(豪州産グラスハイ中国向け輸出数量推移 出典：豪州農務省)

以上